

学びのフォーラム

<4>

大震災から

震災後、福島県浪江町から本県に転居し、当準備校へ通っている姉弟がいる。この姉弟の生の声である。「震災で自立ができた。あまり話をしていなかつ



高校生が変わった

中 萬 学 院
大学受験指導事業部長 井川 隆成さん

た近所の人と協力するようになったり、周囲が騒いでいても冷静さを保てたり、電車にも1人で乗れるようになった。元の生活も望んでも無理なものはない

京都大学総長の松本紘先生と出会ったときの、松本流MMKを思い出した。西洋流の「もっとも」と、まだまだ、勝たなきや」に対し、松本流MMKは「もったいない(節約)、みっともない(矜持)、かたじけない(自然、人間などに対する広い感謝)」である。

と素直に思える(高1男子) 「たった1日の出来事ですべてが変わり、また受け入れられない部分もある。福島では先輩や同級生たちと部活のバスケットを頑張っていたのに、それが

できなかったってとても悔しくて悲しい。でも神奈川に来て出会いもあったし、目標も決まったので、それに向かって頑張ろうと前向きに考えられるようになった(高2女子)

からなので、今できることをしっかりやり、時間を大切に使うようになった(高3男子) 震災を通じて、情報化社会で育った高校生がそれなりに気づき、変わらなっている。過日、

震災があったことで多くの人に今あるすべてのものに感謝する心と、家族や友人との絆をあらためて結び直そうという心が芽生えたのは確かだ。この芽を育むことがこれからの教育に必要で、難題に立ち向かう日本が再生するターニングポイントかもしれない。